

## ●字幕翻訳の大変さ●

誰もが、当たり前のようにしてきている映画字幕も、裏には一人の大変な苦勞があるのだということを、講演を聞いて思わされました。

英語力さながら、日本語力が十分に備わっていないとこの仕事はできるものではありません。訳される英語は、ほとんどが意識されてスクリーンに現れます。というのは、直訳をしてしまえば長すぎて読み終わる前に字幕が消えてしまうのです。基本的に、日本語字幕は、台詞を話している時間が1秒につき、4字以内だそうです。それがどれだけ短い日本語なのか、以下でぜひチャレンジしてみてください。

### ★Challenge yourself! 翻訳家になったつもりで!★

'If you don't go when you want to go, when you do go, you'll find you're gone'

これは、「世界最速のインディアン」という映画の中でアンソニー・ホプキンスが言ったセリフです。彼は、これを3秒で言うそうです。ですので、12から13文字の日本語で訳してみてください。もちろん意識になりますが、エッセンスはしっかりと入れてください。さあ、あなただったらどんな風に訳しますか？

下のほうに、戸田さんの訳を載せておきました。ご自分のと比較してみてくださいね。

## サマーイベント-Picnic-

チラシでもご案内している通り、8月2日（日）にピクニックを行います。今回は、アメリカンスタイルのピクニックを体験してみようということで、さまざまなアウトドア・ゲームを用意しました。

子どもから大人まで楽しめるような内容となっていますので、ぜひ、ご家族・お友達を募ってご参加ください。

とき：8月2日（日）3：00PM-6：00PM

場所：谷地橋下の公園（河北町、道の駅ぶらっとびあの下）

持ち物：自分の飲み物、帽子、敷物（必要な人）

紫外線が強い時間帯を避けました！



## ブログ、アップしました！

ぜひ、ホームページの方もたびたびチェックしてくださいね。

戸田さんの訳：

「やるときはやるっきゃない。」



MY English  
School Co., Ltd

マイ英会話  
myeigo.com

●東根校(本校)  
フリーダイヤル:  
(0120)43-6944  
Tel (0237)43-6944  
Fax(0237)53-8102  
東根市中央  
2丁目11-1  
セレッサ東根2-A

●山形成沢校  
山形市蔵王成沢  
718-9

●山形桜田校  
山形市桜田東  
2-14-3



# NEWS LETTER

Volume2, Issue 7

July 22nd 2009

## 全外協セミナー・レポート

## 戸田奈津子さんの講演会 —スターと私の映会話—

先日5月30日、全外協主催の講演会が東京であり、出席してきました。洋画好きの方なら誰もがご存知のあの有名な通訳・字幕翻訳家の戸田奈津子さんが講演者として来て下さいました。73歳とは思えない若々しい機知にとんだ話をたっぷり聞かせていただきました。私自身にとっても、戸田奈津子さんは昔からとても尊敬する方でしたので、直にお話を伺えて、大変光栄でした。



## Congratulations Nadia!



先日、ナディア先生が、TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) 教育学英語教授法を取得いたしました！

TESOLとは、英語圏以外の人に英語を教える教授法のことです。

これからも、マイ英会話の生徒の方々のためにがんばります！

## 戸田奈津子さんの講演会

### ●戸田さんと英語との出会い●

彼女は、特別に英語に恵まれていたかというところではなかったらしいです。英語はごく普通に中学生のころから始め、戦後間もない学校での英語の授業というのは、聞く・話すは全くないもっぱら読み書きのみの、たいへん偏った英語だったそうです。しかし、彼女は英語に出会う前に映画と出会い、映画と恋におちいたので、洋画の中で使われる英語をなんとかものにしたいと、がんばられたそうです。中2の頃に英語の先生が、生徒に英作文を書くように言われました。戸田さんは、この「英語を書く」ということにおもしろさを見つけ、たくさん英文を書いては先生に添削してもらったそうです。彼女が言うには、英語は、聞く・話す・読む・書くの4つがバランスよく積み重ねられていくのがもっとも理想である、しかしある程度、大きくなってから英語を学ぶ人には「書く」ということが意外と力になる、とおっしゃっていました。

### ●英語は目的ではなく、あくまでTool(道具)●

英語をものにする秘訣として大事なことは、英語を学ぶとき、英語をGoal(目的)とするのではなく、あくまでTool(道具)とすることが大切だと強調しておられました。ある人にとっては、留学をしたいから、英語をがんばる。ある人にとっては、会社で必要だから。またある人にとっては海外から来る人と話したいから、そのために英語を学ぶといった、何か自分自身でモチベーションを持つことがポイントであります。戸田さんにとってはそれが映画だったわけで、映画のためにそのToolとして英語を人一倍がんばり、その結果字幕翻訳家、通訳といった仕事をみつけるきっかけとなったわけですね。

### ●コミュニケーション力は語学力+アルファ●

映画俳優が来日する際、戸田さんに通訳の仕事がたくさんまわってくるのは、通訳者の中で彼女が一番英語ができるからでなく、彼女が映画のことを一番よく知っているからだそうです。コミュニケーションという域で考えるとき、語学力よりも先に、その内容に関して、自分がどれほど理解をしていて、またどれだけ興味があるかということが大事になってきます。

語学力はそれを相手に伝える手助けをしてくれます。伝えたいことがたくさんあればあるほど、語学力は伸びます。それは、言葉が生きて相手に伝わっていくため、自分の中にそれを定着しやすいのです。戸田さんは、映画のことなら誰よりも深く知っていたし、関心を持っていました。俳優や女優たちはそんな彼女とともに行動するのが心地よかったのでしよう。(4ページに続く)



## 近年の入試事情、ご存知でしたか？

日本の入試は、ここ10~15年の間で大きく変わってきています。センター試験を始めとして、多くの私立大学における入試は英語の総合力を図る方向へと変わりました。15年前のセンター試験の内容を見ると、文法中心の問題が大部分を占めていたのに対し、近年の試験内容には文法のみを問う問題がなく、すべての問題において英文の内容理解を問われています。これは、文法が必要なくなったわけではなく、文法を知っていることは前提となり、それにプラスして英文の内容を理解する力が不可欠となってきたわけです。高校入試においてもこの傾向は少しずつ変わってきています。しかしながら、残念なことに学校における英語教育や、塾での英語学習はいまだそれに対応されていません。

英語が話せるようになるために英会話スクールに通うが、入試のため塾に通う、というお子さんがたくさんおられます。しかし、これからは(塾での教え方が変わらない限り)塾での英語学習が必ずしも入試に合格につながるとは考えにくくなります。それどころか、英語→英語の頭ではなく日本語→英語の頭を作ってしまうため、英語理解をする上でかえって障害となりうる可能性があります。そうなってしまえば、今までせっかく英語の頭を作ってきたのが大変もったいなく思われます。

マイ英会話では、英語の頭を持ち続けながら、入試にも対応できる英語の総合力を子ども達に養ってもらおうと、他の英会話スクールやまた英語塾にはない、カリキュラムを用いています。それが、今現在小学生のみなさんが学んでいる”Finding Out”のプログラムであり、多読本の活用など、積極的な学習者を養うために行っているさまざまな取り組みです。英語を本当の意味で「使うことができる」ようになり、また入試にも強くなれる力をつけることができるよう、これからも全力でご指導していきたいと思えます。ベビーから高校生になるまで、マイ英会話は、みなさんの必要な英語をその時期に応じて提供していきます。

